

大学入学共通テストの 試行調査について

プレテストを徹底分析！

英語（リスニング）

 第一学習社

① 試行調査（プレテスト）から見える「共通テスト」の展望

■ 「共通テスト」は2018年2月のバージョンB・同11月の試行調査の形式になる可能性大！

- ・2018年2月の試行調査では、2種類のリスニングテストが実施されました。そのうち難易度の高いバージョンBをベースに、11月の試行調査が行われました。
- ・「共通テスト」はバージョンBと11月の試行調査がベースになる可能性が高いと言えます。

■ リーディングとリスニングの配点と同じになり、リスニング対策がますます重要に！

- ・11月の試行調査では配点が発表されました。リスニングはリーディングと同じ100点です。
- ・リーディングとリスニングの配点が同じということであり、現行のセンター試験（リーディング200点・リスニング50点）よりもリスニングの比重が高くなったと言えます。

■ 「思考力・判断力・表現力」が問われる！

- ・「共通テスト」では「思考力・判断力・表現力」が問われます。
- ・リスニングの場合には、スクリプトの内容がそのまま正答の選択肢に反映されるわけではなく、例えば、読み上げられる内容からどのような状況であるかを思考・判断することが求められる設問が見られます。
- ・話者の立場を判断する問題や、複数の説明の中から最も条件に合うものを比較して選ぶ問題など、思考だけにとどまらず判断力を要する設問が見られます。

■ 「知識・技能」については「活用する力」が必要！

- ・「知識・技能」は語彙や文法といった言語材料や音声に関することと考えてよいでしょう。
- ・文法面では、例えば、過去完了が用いられた文がどのような状態を表すかをイラストから選ぶ問題

が出題されました。これは、知識としての文法ではなく文法の活用を意識した設問と言えるでしょう。

- ・音声面では、アメリカ英語以外の読み上げ（イギリス英語や英語を母語としない話者による読み上げ）も行うとされています。実際、アジア系話者による発話が見られますが、極端に発音が異なるということはありません。

■ **実際のコミュニケーションの場面を想定し、幅広い話題について出題！**

- ・講義を聞いてメモを取る場面など、実際のコミュニケーションの場面が想定されています。
- ・出題される「話題」は日常的なものばかりではありません。ゲームが人間に与える影響など、内容的にやや難易度が上がる「社会的な話題」についても取り上げられています。
- ・新学習指導要領では「話題」として「身近な話題」と「社会的な話題」の2つに分けられていますが、新学習指導要領を先取りしていると考えることもできるでしょう。

② リスニングの「共通テスト」に向けた対策

■ 「思考力・判断力・表現力」の養成のためには、授業での言語活動の充実を！

- ・「思考力・判断力・表現力」が問われるということは、従来型のリスニング・コンプリヘンションの学習だけでは不十分でしょう。
- ・単に「聞く」練習ばかりではなく、相手の話を聞いて相手が何を言おうとしているかを考えて適切な応答をする「やり取り」の言語活動などを通じて、思考・判断の上で表現するといった日頃からの練習が重要になるでしょう。
- ・賛否両論ある話題に関する対話も出題されますが、ディベートやディスカッションといった言語活動をしておくことで、そうした話題の展開に慣れ、思考力・判断力を鍛えておく必要があるでしょう。
- ・実際のコミュニケーション場面を想定した出題がなされるという点で、教室でさまざまなコミュニケーション活動を行っておくことは有用でしょう。講義の後の質疑応答という場面が出題されましたが、授業においてもプレゼンテーションの後に質疑応答の時間を設けることなどにより、形式的にも慣れることができるでしょう。

■ 「知識・技能」の面では知識を活用できることとまずはアメリカ英語の発音習得を！

- ・文法を学習する際には、例文を訳すようなレベルではなく、言語活動の中で活用できるようになることが重要でしょう。
- ・スクリプトと解答の選択肢の間で表現のパラフレーズが行われます。同種の語彙・表現をまとめて覚えておくとよいでしょう。
- ・音声面では、アメリカ英語以外の音声もありますが、極端に発音が異なるということはなく、まずはアメリカ英語の発音練習が重要でしょう。

■さまざまな話題に関する背景的な知識も役に立つ！

- ・試行調査では、例えば、ゲームが人間に与える影響という内容が出題されましたが、話題性のある内容については、「コミュニケーション英語」の教科書で取り上げられている題材などを通じて背景知識を得ておくと、聞き取りの役に立つでしょう。

■設問別の対策を十分に！ CEFR A レベル問題で高得点を！

- ・第4問以降の CEFR B レベルの問題は1回読みということもあり、難易度が上がります。一方、第4問以前の CEFR A レベルの問題は2回読みで、取り組みやすい問題と言えるでしょう。
- ・配点は全体的に大きく変わりませんので、設問別の対策をしっかりと行って、序盤の易しい問題で取りこぼしをしないことが重要です。

3 リスニングの問題構成

		2018年2月試行調査 (バージョンA)	2018年2月試行調査 (バージョンB)	2018年11月試行調査
第1問A	問題数(配点)	全3問	全5問	全4問(各3点)
	読みの回数	2回読み	2回読み	2回読み
	CEFRレベル	A1程度	A1程度	A1程度
第1問B	問題数(配点)	全2問	全4問	全3問(各4点)
	読みの回数	2回読み	2回読み	2回読み
	CEFRレベル	A1～A2程度	A1～A2程度	A1～A2程度
第2問	問題数(配点)	全3問	全5問	全4問(各3点)
	読みの回数	2回読み	2回読み	2回読み
	CEFRレベル	A1～A2程度	A1～A2程度	A1～A2程度
第3問	問題数(配点)	全3問	全5問	全4問(各4点)
	読みの回数	2回読み	1回読み	2回読み
	CEFRレベル	A1～A2程度	A1～A2程度	A1～A2程度
第4問A	問題数(配点)	/	全2問	全2問(4点/各1点)
	読みの回数		1回読み	1回読み
	CEFRレベル		A2～B1程度	A2～B1程度
第4問B	問題数(配点)	1問	1問	1問(4点)
	読みの回数	2回読み	1回読み	1回読み
	CEFRレベル	B1程度	B1程度	B1程度
第5問	問題数(配点)	全4問	全4問	全2問(各4点)
	読みの回数	2回読み	1回読み	1回読み
	CEFRレベル	B1程度	B1程度	B1程度
第6問A	問題数(配点)	全2問	全2問	全2問(各4点)
	読みの回数	2回読み	1回読み	1回読み
	CEFRレベル	B1程度	B1程度	B1程度
第6問B	問題数(配点)	全2問	全2問	全2問(各4点)
	読みの回数	2回読み	1回読み	1回読み
	CEFRレベル	B1程度	B1程度	B1程度

4 リスニングの設問別問題分析

- ・この問題分析は2018年11月に実施された試行調査についてなされたものです。
- ・分析は第一学習社編集部が行いました。

第1問A

単一の人物の発話を読み上げられ、それに最も近い意味の短い英文を選択する問題。

【読み上げ回数】2回

【スクリプト】10～20語

【CEFRレベル】A1程度

【配点】各3点

◆問われる知識・技能◆

第1問は単一の人物の発話というスクリプトの性格上、話の展開よりも言語材料の知識が必要とされる割合が比較的大きいと考えられる。

問1: I've had ...という現在完了がどのような状況を表すかに注意する。tea や nice という比較的強く読まれる内容語を聞き取る。

問2: a lot of work to do の to do は不定詞であるが、不定詞は「これから～する」という意味を表す。この点から、明日どうなるのかを考える。

問4: will have to ～に注目し、have to は must の意味であることを把握する。

◆問われる思考力・判断力・表現力◆

受検者が音声再生前に見られるのは選択肢の4つの英文だけで、読むための時間は与えられないため、音声を聞いて瞬時に、発話となされる場面をイメージする必要がある。第2問以降とは異なり、第1問では発話の場面は明示されないので、だれの、だれに対する発言なのかを理解することがポイントとなる問題もある。

問2: 正答の The speaker cannot go to the party. について、スクリプト中で直接的言及があるわけではない。つまり、スクリプトの I have a lot of work to do の意図を判断する必要がある。have a lot of work to do → cannot go to the party という状況である。また、スクリプトは..., but I have a lot of work to do. とあるが、しばしば逆接 but の前は譲歩にあたる内容がきて、but の後に話し手 [書き手] の意図・主張の中心が置かれることにも注意したい。

問3: 本問も正答の Junko got wet in the rain. について、スクリプト中で直接的言及があるわけではない。スクリプトの had no umbrella や ran home in the rain の結果、どういう状況になったかを判断する必要がある。

問4: but の後に話し手 [書き手] の意図・主張の中心が置かれることに注意する。

第 1 問 B

単一の人物の発話が読み上げられ、その内容を表すイラストを選択する問題。

【読み上げ回数】2回

【スクリプト】10～20語

【CEFR レベル】A1～A2 程度

【配点】各4点

◆問われる知識・技能◆

2018年2月試行調査では、The man is going to have his house painted. という、be going to ～や「Oを…してもらう（主語は…を行わない）」の意味の have+O+過去分詞を含むスクリプトが出題され、正答率が低い問題となった。おそらく本番の「共通テスト」の第1問においてはこのような正答率が低くなる設問は出題されないと考えられるが、前述のとおり、ある程度の言語材料の知識は必要だろう。

問1：as soon as ... という時の接続表現がポイント。

問2：不定詞を用いた重要表現の too ... to ～がどのような意味であるかを把握する。

問3：スクリプトは典型的な過去完了の英文である。出来事の順序は、had started ... (過去完了) → entered ... (過去) である。

◆問われる思考力・判断力・表現力◆

第1問Aと同様、発話の場面は明示されない。第1問Bのスクリプトはその内容を画像・イメージとして把握して判断することを念頭に置いておくべきである。

問1：as soon as ... の前後の動作がほぼ同時になされるということを表しているイラストを判断する。

問2：スクリプトの too busy がどのような状況なのかを判断する。

問3：スクリプトに出現する過去完了がどのような時を表すかを理解していないと解答できない問題である。すなわち、知識としての文法ではなく、それを活用する中で表現力を高める学習も必要だろう。こういった意味で、文法の学習は単なる例文の和訳のような学習にとどまるのではなく、実際に活用してその用法を身に付けておく必要があるだろう。

第2問

2人による対話を読み上げられ、最後に質問の英文を読み上げられる。その答えとして最も適切なイラストを選択する問題。

【読み上げ回数】2回

【スクリプト】30～40語

【CEFR レベル】A1～A2程度

【配点】各3点

◆問われる知識・技能◆

第1問と同様に、この問題でも言語材料の知識が要求される。また、単一の人物の発話であった第1問と異なり、第2問のスクリプトは対話形式なので、イントネーションなどの音声面の知識も重要になる。例えば、上昇調で読まれる平叙文が相手に対する疑問であることなどを理解しておく必要がある。その他、リスニングテスト全般に言えることではあるが、語の連続による音の変化などを知っておくことも解答の一助となる。

問2：時・順序の表現や比較表現、比較的強く読まれる内容語を把握する必要がある。具体的には、cold at first, get warmer, rain on Thursday, clouds on Friday が挙げられる。

問3：問2と同様に、内容語の正確な把握が必要である。具体的には、small ears, short-tailed one, long nose である。

問4：be afraid of ...などの知識が必要。

◆問われる思考力・判断力・表現力◆

設問文に「対話の場面が日本語で書かれています」とあるように、第2問以降はすべて場面が提示されているので、その場面での会話・発言であることをまずは確認しておく。実際のコミュニケーション場面を想定した設問であり、ふだんからの教室での言語活動が重要になるだろう。

センター試験と比較すると、場面が示されることで、スクリプトからは場面描写にあたる発言（例：I've enjoyed watching animals in the zoo.など）が削減されており、そのぶん解答に必要な情報の密度が濃くなっていると言え、むしろ難易度は上昇したと見ることもできる。必要な情報を聞き取り、さらにそれに対する聞き手の意見や判断（Yes なのか No なのか）を確認し、最後に質問を聞いて何が問われているかを把握して解答する。

問1：女性の話の意図を把握する。

第3問

2人による対話を読み上げられ、その答えとして最も適切な語句や文を選択する問題。

【読み上げ回数】2回

【スクリプト】40～50語

【CEFR レベル】A1～A2程度

【配点】各4点

◆問われる知識・技能◆

この問題も第2問までと同様、言語材料の知識が要求される。場面描写の有無とそれにもなうスクリプトの性格の変化があるとは言え、全体的にこの第3問はセンター試験の第3問Aと同じアプローチでよいと考えられる。

問1: 質問文中の *be going to* ～に着目する。2回目の女性の発言中の *pasta* や *salad* といった内容語を聞き取る。

問3: 質問文に *the man feel ...* とあることから、男性の考えや気持ちに関する表現が重要であるとわかる。スクリプトには、*I think ...* の形で男性の考えが示されている。

問4: 質問文中の *agree about* に注目する。

◆問われる思考力・判断力・表現力◆

第2問と異なり、第3問では質問文も提示されているので、どのような情報に注意を払うべきか、スクリプトを聞く前に目星をつけるようにしたい。

問1: 2回目の女性の発言で、まず *pasta* が示され、*soup* という発言がある。しかし、その直後に *Oh, but ...* という逆接表現によって *soup* が打ち消され、*salad* を提案するという話者の発話の流れを正確に判断する。

問2: 男性が最後に発した *do that* が *walk ...* といった内容を指示すると判断することが重要であるが、その前の *a nice day* や *need some exercise* から *walk* が連想されると判断することもできる。

問3: 2回目の男性の発話で、*But now I think ...* とあるが、*But* の後に話者の意図が表れやすいということも判断材料になる。

問4: それぞれの話者の意見・考えを聞き分ける必要がある。問われているのは *agree about* である点なので、2人の話者の共通認識を判断する。

第4問A

問1：単一の人物によるやや長めの発話を読み上げられ、聞こえてくる順番にイラストを並べかえる問題。

問2：単一の人物によるやや長めの発話を読み上げられ、情報をもとに表中の4つの空所を埋める問題。

【読み上げ回数】1回

【スクリプト】70～100語程度

【CEFRレベル】A2～B1程度

【配点】4点・1点×4

◆問われる知識・技能◆

第4問Aは問1、問2という性格の異なる2問で構成される。イラストの並べかえ問題である問1は、他の問題とは異なり、誤りの選択肢がないので、言語材料面で問われる知識は比較的少ないと言える。

問1：Last Saturday といった時を表す表現が重要になる。

問2：表中の空所を埋めるためには、時間や値段といった数字の聞き取りがポイントになる。また、up to ...などの重要表現を知っておく必要がある。

◆問われる思考力・判断力・表現力◆

問1は、「聞こえてくる順番に並べなさい」という設問文から考えると、単純に聞こえてくる順番にイラストを選んでいけばよいということになる。解答に必要な情報と不要な情報があるので、イラストから必要な情報は何かを判断してリスニングに臨む。なお、音声は1回しか読まれず、問題終了後のインターバルは約15秒しかないため、聞きながらメモを取る形で解答するとよい。

問2は、読み上げられるルールに則して表を補うことになるため、まずはこのルールの部分を確実に聞き取ってメモを取る。音声終了後には約40秒のインターバルがあるため、メモを解答に落とし込むのに十分な時間がある。

問1：話の流れを整理しながら聞く必要があるが、前述の時を表す表現に着目することが話の流れに関する思考・判断の助けとなる。

問2：Course Aの30分の場合の値段とCourse Eの120分の場合の値段については直接の言及はない。つまり、間接的に述べられた情報から思考・判断する必要がある。前者はスクリプトの70 dollars for tours up to one hour から、後者は50 dollars for each additional hour over 90 minutes から判断することが求められている。

第4問B

4人の発話が順番に読み上げられ、提示された3つの条件をすべて満たす一つを選択する問題。

【読み上げ回数】1回

【スクリプト】40～50語×4

【CEFRレベル】B1程度

【配点】4点

◆問われる知識・技能◆

1人ずつ発話が行われ、合計4人の発話を聞くことになるが、アメリカ英語以外の多様な英語を聞くことになる。最初の話者にアジア系と思われる英語が使われている。ただし、一般的な発音との違いはあまり顕著なものでなく、通常の音声学習で十分解答できるものと思われる。

また、語彙の面でも、4人の発話はパラフレーズされており、別の表現で同じことを述べている点に気づくことも重要となる。

◆問われる思考力・判断力・表現力◆

提示された状況と条件、また問いをよく読んでおかないと、何を聞いて何を答えるのかの理解に戸惑う。提示された情報を読むための時間が設けられるため、うまく活用する。

複数の情報を聞き、条件がすべて合致するものを選ばなければならないため、事前にどの情報に注意して聞き取るか目星をつけておく。複数の異なる見解を聞き、それぞれの話者の意図を把握して、条件に合致させるという、まさしく思考力・判断力を問う典型的な問題であろう。

3つの条件を提示する言い方にバリエーションが持たせられており、thoughを含む文で欠点が挙げられる場合のようにわかりやすい場合もあるが、There are private rooms, but only for the seniors.のように文の後半で条件付きであることがわかる場合もある。こうした点も含めた判断が必要である。

第 5 問

問 1：単一の人物による長めの発話を読み上げられ、ワークシート中の空所を埋めながら、講義の骨子を把握する問題。

問 2：単一の人物による発話を読み上げられ、問 1 の情報および提示された図表と合わせて正しい内容を選ぶ問題。

【読み上げ回数】1 回

【スクリプト】250 語程度・40 語程度

【CEFR レベル】B1 程度

【配点】各 4 点

◆問われる知識・技能◆

言語材料の知識が必要になるのはもちろんだが、主に問いたい資質・能力に、「論理の構成や展開及び表現」が第 5 問から追加されていることに注目する。まとまった講義の英文を聞く問題では、最初に主題が述べられ、その後で具体的な内容に入っていくという一般的な文章構成を知っていれば、主題が何で、具体的な説明としてどのようなことが述べられるかに注意して聞くことができる。

もっとも、リスニングで聞き取る音声はパラグラフの切れ目がリーディングのそれほど明確ではない（若干のポーズがあるのみ）ので、どこで話が切りかわるかを把握できるようにするためには日頃から長めの英文の聞き取りに慣れておく必要がある。また、講義という場面の性格上、第 4 問までと比べて表現がかたかったり、ディスコースマーカーが多く使用されるといった特徴がある。

話題としては、技術革命と職業の関わりというやや社会的な内容となっている。教科書などで AI に関する題材などに触れる機会があるかもしれないが、そうした機会を通じて、話題の背景的知識を得ておくことも聞き取りの助けとなる。

問題の形式としては、ワークシートやグラフなどの文字情報と、音声によって聞く情報を組み合わせて解答する問題である。必要な情報をすばやく読んで理解するリーディングの技能も重要になってくる。ワークシートを読むために事前に約 60 秒のインターバルが与えられるが、ワークシートと選択肢すべてを読み込むことは難しいので、情報の取捨選択をしなければならない。まず、表の空所にどのような情報を補うのかを把握するとよい。聞き取りの後にも約 40 秒のインターバルが設けられるので、その間にメモを解答に落とし込んでいく。

問 1：Number of jobs が問われているので聞き取りの際には数字に注意が必要である。また、Kinds of labor created or replaced の表では 19th century と Today とあるので、時を表す表現も重要になるだろう。

◆問われる思考力・判断力・表現力◆

問 2：図表の情報とスクリプト全体を合わせて思考・判断することが求められている。

第 6 問 A

2 人によるやや長めの対話を読み上げられ、2 人の主張の要点を選択する問題。

【読み上げ回数】1 回

【スクリプト】130 語程度

【CEFR レベル】B1 程度

【配点】各 4 点

第 6 問は A・B を通じて、段階を追って言語活動が発展していくような構成となっている。A ではゲームの賛否に関する大学生の対話、B ではゲームに関する講義とそれに対する質疑応答という一連の内容になっている。

◆問われる知識・技能◆

第 5 問に続き、話題に関する背景知識を持っていることが聞き取りの助けとなる。第 6 問 A の話題はゲームである。ここでは、ゲームをすることに対する賛成意見と反対意見にはどのようなものがあるか知っておくとよいだろう。

◆問われる思考力・判断力・表現力◆

第 6 問 A では、スクリプトと解答の選択肢間でのパラフレーズがここまで以上に積極的に行われている (different in real life と do not represent the actual world/how to build up teamwork と develop cooperative skills など)。そのため、語彙の知識も要求されるが、それぞれの話者がどのようなことを主張しているかを判断しなければ正解の選択肢を選ぶことはできない。問 1・問 2 とともに、各話者の main point を選ぶ問題であり、それぞれの話者が主題に対して賛成なのか反対なのか、そしてそれぞれの主張の要点を理解することがこの第 6 問 A のポイントである。

また、第 6 問 A はゲームに関して意見の対立がある者同士の対話である。賛否両論ある話題に関するディベートやディスカッションなどの言語活動を通じて、このような対話の展開に慣れておくことも重要だろう。こういった意味でもふだんの言語活動を通じて思考力・判断力を鍛えておく必要がある。

第 6 問 B

問 1：4 人による長めの会話が読み上げられ、反対意見をもっている人をすべて選択する問題。

問 2：会話のメインとなる人物の意見を支持する図表を選択する問題。

【読み上げ回数】1 回

【スクリプト】270 語程度

【CEFR レベル】B1 程度

【配点】各 4 点

2 月の試行調査と問題形式はほぼ同じだがスクリプトが大きく変更された。2 月の試行調査では登場人物の意見がそれぞれ発話されるだけであったが、11 月の試行調査では質疑応答の形式がとられている。これにより 1 人の人物が複数回発話したり、教授や司会者とのやり取りがあったり、マイクをタップする音などのサウンドエフェクトが使われるようになった。センター試験第 4 問 B と同様、次に話す人物の名前を呼びかけたり、発話の最初で自己紹介をすることで発話者の名前がわかるようになっている。

◆問われる知識・技能◆

スクリプト中の eSports は最近聞かれ始めたいわゆる時事単語であるが、ニュースなどでたびたび取り上げられており、eSports が何なのかを知っていれば聞き取りのヒントになる。第 5 問・第 6 問は総じて、時事的な話題などについてふだんから背景的知識にふれておくことが重要になる。

◆問われる思考力・判断力・表現力◆

第 6 問 B は講義の後の質疑応答の場面である。実際のコミュニケーション場面では、プレゼンテーションの後には質疑応答の時間が設けられることが多い。ふだんの授業においても、プレゼンテーションの後に質疑応答を行っておくなどの言語活動の充実を図っていれば、思考力・判断力・表現力が鍛えられるばかりではなく、こうした問題の形式に慣れることができる。

問 1：「すべて選びなさい」という設問文から、反対している話者が何人いるかは不明であり、さらに賛成はしていないが反対もしていない話者がいるかもしれないということを念頭に置いて、判断することが求められている。まずは、Professor の講演が賛成の立場だったのか反対の立場だったのかを判断する。その後の質疑応答では、発言者の名前を確認し、反対する表現に焦点を当てて聞き取る。

問 2：選択肢の図表はまったく異なるレイアウトの 4 種類であり、センター試験第 1 問に新登場したグラフ問題のような、数値や順位のみが異なる 4 種類ではない。ただし、すべての図表には Mental Health Patients といったタイトルが設けられていることに注目したい。Professor の主張の main point がゲームの利点であることから正答の選択肢を判断する。

5 「大学入学共通テスト」に関する今後の予定

2019年 (3月まで)	・試行調査(プレテスト)の分析結果の公表
2019年 (4月以降)	・実施大綱の策定・公表 ・出題教科・科目の策定・公表
2020年 (4月以降)	・実施要項の策定・公表(時間割, 出願期間)
2021年 (1月)	・「大学入学共通テスト」の実施

(平成30年12月7日)

本分析資料のほか、他教科・他科目の分析資料(PDF)もダウンロードできます。



 **第一学習社**

広島本社

733-8521 広島市西区横川新町 7-14

TEL 082-234-6800